

School Life in 千秋 Vol.33

●●●●●●●● 令和4年度冬季休業前の全校集会 ●●●●●●●●

校長先生のお話

全校の生徒のみなさん、こんにちは。
このたびは、校長室から私の話をお届けします。

突然ですが、3年前の今頃を思い起こしてください。2019年12月。COVID-19が出現したと言われております。この3年、人類はこのウイルスに翻弄され続けております。他のウイルス同様に変異と進化を繰り返し、私たちは人工知能AIを駆使するなどして対抗しています。ウイルスに知能はないでしょうから、皮肉とも言えます。アフターコロナはおろかウイズコロナも容易に形にできない現状の中、生活様式を変え、適応してきました。私たち生物は、この適応を繰り返しながら進化してきましたが、変化する外部環境に合わせて適応することは能力でもあり、生存するために必要な事とも言えます。一方で、外部の環境が変わっても、体温や血圧などを一定に保つこともできます。これを恒常性の維持と言います。

さて、後期の前半が終わろうとしています。学業や特別活動、部活動への取組を振り返りましょう。一 環境を整えることができましたか。二 自分から進んで取り組むことができましたか。三 しっかり考えて行動することができましたか。四 周りの人と一緒に学ぶことができましたか。五 自分の考えや意見をわかりやすく、はっきりと言うことができましたか。

明日は冬至。一年で、お昼の時間が一番短い日です。23日からは一日につき二分ほど長くなりますから一陽来復の季節でもあります。冬の寒さはこれからが本番ですが、太陽の恵みを一瞬でも感じる事ができれば、心も少しは軽く、明るくなると思います。心を軽く、明るくするためには、自分をよく知ることが大切です。できることとそうでないことを明らかにすることが大切です。人と比べ過ぎず、物事に真摯に向き合い、一つ一つ取り組み、仕上げる事が大切です。「あきらめる健康法」という本にも記されていますので、是非読んでみてください。

私たちが生きるこの時代は、うつろいやすく、不確かで、いろいろなことが絡み合い、しかも曖昧な事から、将来の予測が難しい時代だと言われております。こうした状況がいつまで続くかわかりませんが、いずれ、みなさんは自立して生き抜いていかなければなりません。自立、すなわち独り立ちということですが、簡単なことではありません。目の前の事に向き合った時に、頭を抱えてしまうことや投げ出したくなること、物を壊したくなる衝動に駆られることだってあるでしょう。そんな感情は私たちがヒトとして生きている証でもあります。決して、命や物を粗末にははいけません。以前にも話したことがあります、「命あればこそ」であることを、改めて、思考の中心に据えて日々を生きてください。

みなさんはこれから十年以内に社会貢献する事になることでしょうけれど、毎日の生活を通して、そのための準備をしていることになります。目の前のこと、足下のことに一所懸命に立ち向かうことは言うまでもなく、未来をつくりあげる基礎基本となっているのです。常に学び、動き、そして、ゆっくりでいいですから、前に進んでください。

全国選抜大会に出場する弓道部女子団体のみなさんをおととい激励しましたが、主将の船木彩智さんは、7日に行われた県庁での激励会で、全国大会に出場するための課題を明らかにし、その解決に真剣に向き合い、日々精進したと言っています。一人では時間と労力がかかることも、仲間や指導者と同じ目標に向かうことで、前向きに取り組めたのではないかと想像します。この姿は、校訓である「自求真善美」を体現したことを表していると思います。改めて、自信と誇りをもって大会に臨んでください。

○3年生のみなさん。きっと大丈夫。

あなたを見守る家族、共に励む仲間がいて、まわりから背中を押され、前に進んでいるから。

○2年生のみなさん。きっと大丈夫。

自分の良いところ、強みがわかり始め、共に歩んでいるから。

○1年生のみなさん。きっと大丈夫。

一所懸命に取り組む先輩を見て、周りからの教えに導かれ、やるべき事に向かおうとしているから。

○全校のみなさん。きっと大丈夫。

大きな事故がなく2022年、令和4年がまもなく終わります。そして、明日からの冬休みをつくるのは、みなさん一人一人です。健康と安全に気を配り、毎日毎日を大切に過ごす事をお願いし、結びとします。

